

[009]九州大学ビジネス・スクールニューズレター

<https://hdl.handle.net/2324/2228917>

出版情報：九州大学ビジネス・スクール ニューズレター. 9, pp.1-, 2010-08. 九州大学ビジネス・スクール
バージョン：
権利関係：



QBS学生会主催/バーベキュー大会

8月21日QBS学生会主催によるバーベキュー大会が開催されました。
このバーベキュー大会は在校生・修了生・教職員が親睦を深める場として企画されたもので、夏のQBSの恒例行事となっています。この日は社会人学生がほとんどのQBSならではの、学生の家族も含めて40名以上が参加し、賑やかなバーベキューとなりました。
今後も学生会ではこのような企画を行っていきたいと考えています。



QANだより

QANは『QBS Alumni Network』の略で、QBS修了生のネットワーク組織として活動し、現在の会員数は約220名です。

QAN新会長挨拶

今年度QAN会長を務めます富松です。

在学中や修了後はどうしても同期や前後の期との交流はあってもQANを利用した全体での交流がなかなか出来ないという現状を考え、今年度はQANネットワークの価値を高めるために、ワークショップやスポーツ活動等を通じて、期を越えたネットワーク構築のための“場”が提供できるように積極的に取り組んでいきたいと考えておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

会員間でより情報交換ができるようQAN公式サイトをリニューアルしています。ぜひ活用して下さい。
(QAN公式サイト) <http://qbs-qan.com>



富松 寛考(5期生)

定時総会と大同窓会開催

5月22日(土)に福岡市内のホテルにて第5回QAN定時総会を開催し、今年度の事業計画と予算案等が承認され、その後同場所にてQBS大同窓会を開催しました。

初開催となった同窓会では、現役のQBS教職員や在校生も参加し総勢で142名となり、修了生による事業報告や参加した各期の紹介など終始盛り上がり会場内至る所で新たな交流が生まれていました。

また、同時間帯で東京・上海でも修了生や留学中の在校生にも集まってもらい、それぞれの会場をSkypeで繋ぎ交流を図るなどQBSネットワークの広さを実感する会となりました。

在校生紹介

西野 晶子さん(7期生)
所属
株式会社ゼンリン

「思い悩みながらも、刺激を受けながら前向きに頑張る日々」。これが今の私。
仕事でも勉強でも、やるべきこと・やりたいことが沢山あるけれど、時間が足りない…。でも、これは自分への言い訳…。

時にはこんな気持ちを抱えながら、授業に出席すること。しかし、講義内容やディスカッションは面白く、自然と前向きな姿勢になっている。更に、帰りに皆とお茶や食事をしながら、講義や仕事についての意見・情報交換。ここでも甘い自分に気づかされ、刺激を受ける。

輝いている人は、健全な問題意識に、いつも前向きに向き合っていると感じるが、QBSにはこのような仲間がたくさん集まっていて、プラスのエネルギーにあふれている。

多様な価値観に触れ、ビジネスに必要な知識や考え方を学べる場であり、高い志を持つ多くの仲間に出会える場だと改めて実感。このような環境に感謝しつつ、学びを仕事に生かし、仕事を学びに生かしていきたい。

福永 傑さん(7期生)
所属
印刷会社勤務

「人は人によって磨かれる。」入学当初、同期生の一人が語ってくれた言葉である。「ダイヤモンドがダイヤモンドでしか磨かれないように、人は人によってのみ磨かれる。互いに磨き合い、QBSでの2年間で充実させよう。」こうして、我々7期生のQBS生活はスタートした。

この言葉は、QBSを表すのに相応しい言葉であると思う。多様なバックグラウンドを持ち、それぞれ異なるフィールドで活躍するビジネスパーソンがここに集い、学んでいる。目標に向かって、互いに刺激し、競い、励まし、尊敬し合いながら、日々お互いを磨きあっている。そんな同志が集う、研鑽の場がQBSだ。

入学して、はや1年半が過ぎた。ダイヤモンドは磨かれたらどうか？修了後、その輝きの真価が問われる。ビジネスの場において、輝きを放てる人材となるべく、残りのQBS生活を全力疾走してゆきたい。



QBS
九州大学ビジネス・スクール
Kyushu University Business School

●九州大学ビジネス・スクールに関するお問い合わせ
〒812-8581 福岡市東区箱崎6-19-1
九州大学貝塚地区事務部教務課学生第四係
TEL:092-642-4167
ホームページ <http://qbs.kyushu-u.ac.jp/>

編集発行／九州大学ビジネス・スクール
担当／QBS事務局
住所／〒812-8581 福岡市東区箱崎6-19-1
電話／092-642-4278
メールアドレス／bs@en.kyushu-u.ac.jp

TOPICS

QBSビジネス・フォーラム開催

去る7月25日(日)の午後、九州大学西新プラザにて、QBSビジネス・フォーラムが開催されました。「ツーリスト・デスティネーションとしての九州の魅力 ～持続し発展する観光のあり方について～」をテーマに、日曜日でありながら130名近い参加者を迎えて、熱いディスカッションが繰り広げられました。

今年は80隻を越えるクルーズ船が博多港に入港する予定であり、まさに空前のクルーズ・ブームといえますが、これは「アジアへのゲートウェイ」を自称してきた福岡にとっては大変な追い風といえます。

川波研究院長のご挨拶の後、星野教授より、持続し発展する観光のあり方を考えることは、新たな都市戦略としての価値の創造であるという視点から、九州の発展に向けて産官学が協働し何ができるのかについて議論を深めたいという主旨の説明で、フォーラムは幕を開けました。

まず、クルーズ船受け入れの陣頭指揮を執られている福岡市港湾局振興課長の高島 収様、日本最大の豪華客船である飛鳥Ⅱの運航に携わられた日本外航客船協会・郵船クルーズの前会長の松平 誠様、「個性豊かな地方都市の創出」の観点から中小企業向けの投資をされているドーガン・アドバイザーズ社長の森 大介様、QBSの海外提携校である大連理工大学で観光倫理を教えられている肖貴蓉副教授の4名からプレゼンテーションを頂きました。続いて、QBSで肖先生の講義を受講している7期生の室岡さんと秦さんから、九州の観光戦略について、研究プロジェクトの成果をご報告頂きました。

後半は、4名の報告者を迎え、星野教授のファシリテーションで、パネル・ディスカッションが行われました。九州の観光の魅力と問題点とは



どのようなところにあるのか、また今後の持続的な発展に向けて何をすべきか、パネリストと会場の皆さんからの質問とコメントを交えて話し合われました。九州の観光に関して、①特色を活かし



たおもてなしを考えること、②自らの強みを認識し、安易に迎合しないこと、③当事者意識を持って取り組むこと、④基本となるコミュニケーションや言語についての改善を図ること、等の意見が出されました。

パネル・ディスカッションの終了後は、今回のフォーラムのご後援を頂いた株式会社福岡リアルティ社長、福岡リート投資法人執行役員の茶木正安様より、同社が主宰し星野教授がリーダーを務める福岡都市成長戦略プロジェクトの活動として、「福岡の2015年世界デビュー」のDVDの映写と同プロジェクトの活動についてご説明を頂きました。

最後に高田准教授より、社会的な課題に対して、産・官・学に市民を加えて連携すること(産官学民連携)の重要性を含めた総括がなされました。4時間という長丁場でしたが、活発な議論を通じて、これからの九州のあり方について問題意識が共有できたのではないかと思います。フォーラム終了後に行われた懇親会でも、参加者の間で活発なディスカッションが続いていました。

なおフォーラムの様子は、当日のFBS福岡放送の夕方のニュースで紹介され、「熊本日日新聞」「福岡経済」などのメディアなどでも取り上げられる予定です。

最後に、本フォーラムの開催に御協力を頂いた株式会社福岡リアルティ、懇親会の飲み物を提供いただいたコカ・コーラ ウェスト株式会社、当日の運営を全面的にサポート頂いたQANの皆さんに、心からお礼を申し上げます。

QBS9期生
(ビジネス・スクール2011年度4月入学生)
募集のお知らせ

募集人員／ 45名

出願期間／平成22年10月6日(水)～10月13日(水)

選抜方法／・第一次試験 出願書類審査

・第二次試験 口頭試問ほか

平成22年11月6日(土)～7日(日)

【入学試験に関するお問い合わせ先】

九州大学貝塚地区事務部教務課学生第四係

ホームページ：<http://qbs.kyushu-u.ac.jp/>

TEL:092-642-4167

E-mail:kakgakusei4@jimu.kyushu-u.ac.jp



(大学説明会)

QBSオープンキャンパス開催

QBS2011年度入学希望者のためのオープンキャンパスの日程は下記の通りです。

■オープンキャンパス

日 時：2010年9月18日(土) 17:30～20:00

場 所：九州大学箱崎文系キャンパス・経済学部棟209教室
(福岡市東区箱崎6-19-1)

参加ご希望の方は、氏名(フリガナ)・連絡先(自宅または勤務先住所)・郵便番号・電話番号・メールアドレスをご記入の上、ビジネス・スクール事務局宛にE-mailまたはFAXでお申し込みください。

ビジネス・スクール事務局

E-mail: bs@en.kyushu-u.ac.jp

FAX: 092-642-4336



(オープンキャンパス)

TOPICS

QBS教員紹介

今回のQBS教員紹介は、岩崎 勇教授です。



九州大学ビジネス・スクールの設立された2003年4月から財務会計、タックス・マネジメント、コーポレート・ガバナンスと監査、プロジェクト演習を教えています。すなわち、主な研究教育領域は財務会計・税務・監査及び企業統治という領域です。元々大学は商学部、そして大学院は経営学研究科なので、一貫してこの分野を勉強しております。

財務会計の分野では、周知のように、我が国においても国際財務報告基準(IFRS)を採用するか否かの決定を2012年に行なうことが現在大きな問題となっており、東京等ではほぼ毎月関連セミナーが開かれています。また、日本会計研究学会や国際会計研究学会等でも、国際財務報告基準導入問題がここ数年大きなテーマとして採り上げられてきています。小生の研究テーマもこれに関連し、現在例えば、「IFRS第9号 金融商品会計について」「国際財務報告基準(IFRS)を巡る米国の会計戦略」及び「IFRSの概念フレームワーク(ED)『報告企業』の到達点と問題点」などを投稿又は執筆中です。これから数年間は、IFRSの導入問題で話題が尽きそうにありません。可能であれば、2012年にIFRS関係の本を出版したいと考えております。

税務や監査の分野においても、IFRSの導入問題は大きな関心事項となっています。

コーポレート・ガバナンスに関しては、日本型と米国型の長所・短所が問題になっておりますが、個人的に現在特に関心を持っているのは倫理・道徳・人間学の側面です。四書(大学・中庸・論語・孟子)などの東洋思想をどのようにコーポレート・ガバナンスに活用していけばよいのかを考察中です。これらの勉強をしていると心が静まってとても穏やかになります。

休みの日には、外で庭いじりをします。花と野菜・果物の育成は、とても趣味と実益が兼ねられます。4月5月は花壇の花々が美しさを競っており、とても好きな季節です。例えば、桜、バラ、アジサイ、ジャスミン、パンジー、チューリップ、ポピー、水仙、アネモネ、矢車草、紫花菜、月見草、芙蓉などとても綺麗です。昨年生垣に新しい日本芝を移植し、綺麗な芝生が出来ました(ただし、草取りは大変ですが)。また、今年で3年目となる赤芽(檜)が何とか格好がついてきて、来年当たり立派な生垣となりそうなので楽しみです。そして、4月から銭亀の「カメタン!!」が仲間入りして、一層賑やかになりました。

岩崎 勇
(財務会計、コーポレートガバナンス担当)

QBS BOOKレビュー「この1冊」

今回のQBSブックレビューは、吉田基樹教授のおすすめの「この一冊」です。

「岩波;理化学辞典、文部省;学術用語集
(数学編、物理学編)」

大学第1、2学年の夏季、春季休暇中に量子、統計論の原書を読もうと図書館に昼夜籠ったことがあります。小生にとり初めての量子概念は難解で、物理が分らないのか英語が分らないのかそれすら理解できず、混々沌々の毎日でした。その時、常に左右にあり、原書解説に必須のものが表記の辞典類でした。原書を読むよりはるかに長い時間をそれらの辞典類に親しみ、それらは量子論理解の



源泉であると同時に、また屢々重ねられ机に寄って転覆する座右の枕ともなりました。

ところで、デュマ作モンテ・クリスト伯を読んだ経験があるでしょう。主人公ダンテスがマルセイユ港外シャトー・ディフに捕われている間、隣室のファリア司祭から優雅な礼節、身のこなしと共に数学、物理学、歴史及び数か国語を教授されます。これにより、船乗りダンテスは、学問を深い思索に応用し、道徳、哲学、社会的に蘊奥を究めたモンテ・クリスト伯に生れ変わりました。そうです、文科、理科の区別などなかった当時の学問とは、数学、物理学、歴史及び外国語だったのです。

さて、これは現代でも変わらないと小生は考えています。表記辞典類は、それら学問を会得する為に極めて重要な役割を果たすはずで、MOTを標榜するQBSでこそ表記辞典類を活用し、文科、理科を問わない広い基礎知識の体得に呻吟した上で、深い思索を重ねましょう。必ず何らかの解を見出せると信じています。

吉田 基樹
(知的財産管理、生産管理担当)

注)学術用語集は現在On-line版になっています。

<http://scitern.nii.ac.jp/cgi-bin/reference.cgi>

MIT滞在を振り返って

高田に准教授のMIT滞在報告です。

2009年9月から翌3月の間、米国のMITに滞在しました。ビザが下りずに1週間出発を延ばすなど、渡米間際までやきもきさせられましたが、無事入国し米国での生活をスタートさせることができました。最初の1週間はホテルに仮住まいしながら、アパート探しと賃貸契約、銀行口座の開設、携帯電話の入手、ドル決済が可能なクレジット・カードの契約、現地の足となる自転車の確保などに追われましたが、第2週目から大学とアパートとを行き来する落ち着いた生活を送れるようになりました。

MITでは、アントレプレナーシップ・センター(Eセンター)内のオープン・スペースにデスクを確保してもらったのですが、そこには常に学生や外部のベンチャー関係者が出入りし、打合せや自習をしたり発表会を行ったりしています。また、有名なビジネス・プラン・コンペ100KやPEVC(Private Equity Venture Capital)クラブなどの学生クラブもEセンター内のCubeと呼ばれるガラス張りの小部屋を活動拠点にしており、そこにいだけで、アントレプレナーシップにまつわる様々な活動に触れることができ、同時にネットワークを広げることができます。私の滞在中に日本から訪ねてきてくれた知人が、「一番感心したのは、高田さんがセンターに出入りするほとんどの人と気軽に挨拶を交わすような人間関係を作っていたことだ」と言ってくれました。私としては、孤独でさみしいのが嫌だったのと、MITの教員は忙しすぎてなかなかつかまらないので、もっぱら学生からいろんな情報を聞き出そうとしていただけなのですが・・・。

スローン・スクールの学生達も、講義の予習や自分のプロジェクト(前述のクラブ活動など)に追われて毎日多忙です。中には、自分の会社を経営しながら学んでいる学生もいます。彼らと付き合っていて最も強く感じたことは、常に機会に対して敏感で、具体的な目標を設定し到達手段を考え行動していることです。例えば、どうすれば自分のビジネス・アイデアを良い事業計画に落とし込めるか、サポーターやチームメンバーとして協力してくれる人がどこにいるか、スポンサーやパートナーとなる企業をどうやって口説くか、プレゼンテーション資料の出来映えは十分か、といったことを常に考え、高い次元で達成しようとしています。その意味で、学生達はビジネスのセミプロと呼べるかもしれません。

Eセンターに出入りする学生を日常的に支えているのが、マネジング・デ



イレクターのBill Auletやプログラム・マネジャーのJose Pacheco、それに3人の女性スタッフです。Billは大柄で、野球かフットボールのコーチのような雰囲気です。Eセンターに出入りする学生達に大きな声で話しかけ、彼らのプロジェクトがうまく進んでいるかを聞き、アドバイスする姿が日常的な風景です。このような雰囲気の中から、新しいアイデアを実現しようとする動きが次々と生まれます。私の滞在中にも、ある学生チームの提案がきっかけで、MIT Entrepreneurship Reviewというwebジャーナルが創刊にこぎつけました。まさに、「インキュベーション」という言葉がぴったりの環境だと言えます。

日常的には、4〜5科目の講義にオブザーバー出席させてもらい、学生チームに混じってディスカッションしたり、授業の予習・復習や関連する情報収集などに前半の3ヶ月を費やしました。スローンでは、各種セミナーや研究会、講演会、イベントなどが充実しており、極めて知的刺激のレベルが高い環境だと言えます。例えば、毎週月曜日のランチ時はTIES(Technology Innovation, Entrepreneurship, and Strategic Management)という研究グループのセミナーが開催され、先端の研究成果の発表とディスカッションが行われ、この分野の研究に関して多くの示唆を得ることができました。また、著名人の講演も多く、10月にはオバマ大統領がMITを訪れ、環境やクリーン・エネルギー関連技術の重要性についてスピーチを行いました。このような知的刺激を毎日シャワーのように浴びることができる環境こそが一流の大学の証であることを実感する毎日でした。

さて、大学以外の生活についても少しお話しします。半年という短期滞在のため、家族を日本に残して来ざるを得ず、久しぶりの一人暮らしでした。大学から自転車で10分(徒歩で30分)ほどの住宅街にある築200年の静かなワンルーム・アパートに住んだのですが、古い建物だけに天井が高く、落ち着いた居心地の良い空間でした。窓からは、垣根の上をリスが走りすぎて行く姿や、紅葉する木々の葉を眺めることができました。秋のニュー・イングランド地方の紅葉はとりわけ美しいことで有名です。自転車でチャールズ川沿いを走ったり、車で郊外に出たりして、日本に比べて圧倒的なスケールの紅葉を存分に楽しみました。

日常生活で最も困ったのはやはり食事です。当初は、朝食以外は全て外食で済ませていたのですが直ぐに飽きてしまったので、韓国食材店で豆腐や餃子、ラーメン、うどん、おでん、カレーのルー、パック入りのご飯などを買い込み、昼か夜のどちらかは自炊する生活に落ち着きました。今思い出すと、朝食(シリアル、美味いベーコンを使ったハムエッグ、フルーツ・ヨーグルト、シナモン風味のコーヒー)が、最も飽きずに毎日でも食べられる食事でした。

せっかくの長期滞在なので、なるべく違う地域も訪れたいと思い、滞後半の3ヶ月間は、出張に合わせてニューヨークやノースカロライナ、カリフォルニア(シリコンバレーやサンディエゴ)などを訪問しました。例えば、ニューヨークまではボストンからバスを利用して4時間半なのですが、片道15ドルで社内はワイヤレスLANも完備され快適です。2度目のニューヨーク訪問時には、QBS卒業生の福澤さん(米国パナソニック勤務)のご自宅にお邪魔し、奥様の手料理をご馳走になりながら、日本企業の国際経営について福澤さんの貴重な体験談を聴くこともできました。

2月には、QBSの学生さんやOBたち12名が訪ねてきてくれたことも良い思い出です。M. Cusumano教授やハーバードのC. Christensen教授の講義を聴き、MITの学生とディスカッションする機会を持てたのは、彼らにとっても良い経験だったと思います。

渡米がリーマン・ショックの直後だったので、アメリカ経済がどれほど疲弊しているか、そこからどうやって立ち直ろうとしているのかに興味があったのですが、実際にボストン/ケンブリッジ地域で生活してみると、経済危機を深刻な問題として感じることはほとんどありませんでした。MITキャンパスの内外には、自らが社会に変革をもたらすことができる本気で信じ、その機会をどん欲に探索し行動する人材が溢れています。社会システムの中に「夢」と「挑戦」がしっかりと組み込まれ、イノベーションが社会を先導しているのが米国の強さの源泉であると肌身で理解することができました。このことが、今回の米国滞在中で得た最大の財産だと言っても過言ではありません。



今後は、米国で得た知見を活かして、QBSや九大に新たに設置されるアントレプレナーシップ・センターを舞台に、夢と挑戦によって社会に新しい価値をもたらす人材を多く育成していきたいと思います。(今回のMIT滞在は、九大OBであるロバート・ファン氏の寄附によって実現しました。この場を借りて、深く御礼申し上げます。)

高田 仁
(産学連携マネジメント担当)



修了生紹介



福澤 康英さん(1期生)
所属
パナソニックシステムネットワークス(株)

電器メーカーで技術系の仕事をしていた私は、経営に興味があり入学しました。

QBSでは、各分野でトップクラスの先生方と多くの経験を持つ学生達の双方向コミュニケーションで、高度な経営スキルを修得できます。その知識を会社で活用し、課題を乗り越えるたびに喜びを感じ、また新たな壁にぶつかるの繰り返し。忙しい毎日があっという間に過ぎていきます。タイムマネジメント力、コミュニケーション力が自然に身に付き、人と人とのネットワークも出来上がる。QBSで頑張った人にだけ与えられる素晴らしい財産です。

修了後は経営企画に移動、米国勤務を経て、商品企画を行っています。QBSで学んだ知識が、異なる職種や海外で役立った事、本当に感謝しています。



松尾 亮爾さん(4期生)
所属
熊本県

勤務終了後の夕方5時30分過ぎ、熊本県庁前バス停から福岡行き高速バスに乗ってのQBSへの通学。それは期待以上に充実した楽しい2年間でした。

行政職員でありながら、企業経営を学ぼうと思った理由は、行政を取り巻く環境が厳しさを増す中で、「経営」の重要性を度々感じたからです。授業はもちろん、先生方や同期生との多様なコミュニケーションを通じ、様々な刺激を受け、知識だけでなく、視野も広がりました。現在、「公共」の業務で試行錯誤の実践を行う毎日です。

QBSのネットワークは貴重な財産。卒業生でつくる公共経営に関する勉強会の場合など様々な恩恵を受けています。在学中もそうですが、卒業後も多様なコミュニケーションが広がっていく。これもQBSの魅力だと実感しています。